



「着られないけれど捨てられない大切な服」を  
リデザインしてファッションショーをひらきました。

多世代交流でまちを元気に!!

令和6年度滋賀県アートコラボレーション事業  
「まちを元気にする」プロジェクト

# MAIBARA 2024 OBACHANS' COLLECTION

開催レポート

～ おしゃれも生き方もチャームに～

発行：2024年12月25日

主催：公益財団法人びわ湖芸術文化財団  
公益財団法人伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団

発行元：公益財団法人びわ湖芸術文化財団 地域創造部  
(滋賀県大津市打出浜 15-1 ☎ 077-523-7146)

企画・編集ディレクション：ワタナベユカリ (株式会社仕立屋と職人)

冊子デザイン：むらかみともこ (aamu creative)

ライティング：船崎桜

第54回滋賀県芸術文化祭参加事業





「まちを元気にする」プロジェクト

# MAIBARA 2024 OBACHANS' COLLECTION

## って何？

マイバラ オバチャンズ コレクション  
MAIBARA 2024 OBACHANS' COLLECTION は、滋賀県米原市に縁のある55歳以上の女性が主役のファッションショーです。「おしゃれも、生き方も、チャームに」を合言葉に、ファッションを通じて文化と芸術にたずさわる多世代の参加者たちがつながり、まちを元気にするプロジェクトとして企画しました。

文：伊吹薬草の里文化センター  
清水啓子



「新婚旅行で着たワンピース」「亡き母が作ってくれたコート」...。長年捨てられず、着ることもできず、タンスに眠っていた大切な思い出が詰まったお洋服を、滋賀県立大学人間文化学部生活デザイン学科の学生たちが丁寧に練りあげた新しいデザイン(リデザイン)で蘇らせます。

初開催の今回は、11名の参加者がモデルとなって次世代の子どもたちと手を取りランウェイを歩きます。彼女たちがキラッと輝く瞬間を、会場で観覧するみなさまにも共有していただき、「私も人生をもっともっと楽しもう！」とさせていただけたらうれしいです。



### プロジェクトのきっかけ

## 女性が元気なまちは活性化につながる

滋賀県湖北に位置する米原市。新幹線駅があり人口が増える地域もある一方で、過疎化が進む地域も多くあります。私自身も米原の過疎が進む地域の出身。そんな地域では、土地柄でしょうか、少し引っ込み思案の人が多いようにも感じています。

世界最高年齢プログラマー・若宮正子さんの2023年の講演で「断捨離・終活は大切なことではあるけれど、自分の生きてきた人生にフタをするのではなく、さらに輝きを増すように楽しく生きてください」という言葉を聞きました。そこからヒントを得て、今回のプロジェクトを企画しました。

さっきまで畑にいたおばちゃんが、ステージでおしゃれな服をまとい、スポットライトを浴びてランウェイを歩く。そんなふうには、普段は引っ込みがちな年齢を重ねた女性が、みなさんの前に出て輝くような企画にしようと考えました。ご自身の大切な洋服に新たな命を吹き込む、アップサイクルの取り組みです。

以前の職場で働いていて感じたのは、女性が元気なお店は流行るのだということ。その経験からも、女性が元気な町は活性化するはず！と信じています。モデルになった女性たちと客席のみなさんが共感しあい、笑顔があふれる時間になりますように。

### これからの「まちを元気にする」プロジェクト

## 世代をつなぐ

今回「Halo harmony」の若いママたちがこの企画に参加しています。使わなくなった子ども用品のリユースに取り組む彼女たちが、元気なシニア世代を応援してくれています。ショーでは、彼女たちのお子さんたちがエスコート役として舞台に立ちます。

今後は、そんな彼女たちやその子どもたちが主役のファッションショーや、今回の企画では対象にならなかった40代、50代なども巻き込んだ多世代でのショーの開催をめざしていきます。

多様な世代が一つの企画に参加することで、今までにないつながりが生まれ、まち全体の活性化にもつながることを期待しています。



## 滋賀県アートコラボレーション事業とは？

(公財)びわ湖芸術文化財団と滋賀県内の文化ホールや文化団体、アーティストが協働でプロジェクトを実施し、地域の多様な創造活動を支援する取り組みです。令和6年度は、以下の3事業が採択・実施されました。

地域で受け継がれてきたものに磨きをかけ、次世代に伝える事業

### 第13回 オーケストラ・ムジカ・チェレステ演奏会 ～ラスト・コンサート～

日野祭囃子とオーケストラが共演。中村典子による新曲「綿向スピリトゥスー日野祭囃子とともに」を世界初演。

会場 日野町民会館わむきホール虹



文化的・創造的つながりを求める人たちの活動を育む事業

### Puppet Festival 2024 ～人形劇がはじまるよ！～ 「オズのまほうつかい」

子どものために活動している地域の団体が集結。丸一日、劇場で楽しめるフェスティバル。

会場 長浜文化芸術会館



### 「まちを元気にする」プロジェクト MAIBARA 2024 OBACHANS' COLLECTION ～おしゃれも生き方もチャームに～

55歳以上の女性が主役のファッションショー。思い出の洋服を学生たちがリデザイン。

会場 伊吹薬草の里文化センター





# MAIBARA 2024 OBACHANS' COLLECTION

出演モデル



アイテム  
ジャケット・スカート

Re design!

55年前、和歌山・南紀白浜への新婚旅行のために、長浜の洋品店「フランスヤ」であつたスーツです。白地に花の刺繍が入った生地を気に入って、思いきりました。ミニスカートが流行の時代だったので、少し短めの膝上丈。一度しか着ていないけれど捨てられず、箱の中に大切にしまっておいてありました。もう一度このスーツを着て、85歳の夫と南紀白浜へ旅行できたらなと思っています。

角田美津子



アイテム  
ジャケット・スカート

Re design!

新婚旅行でオーストラリア、ニュージーランドへ着ていった思い出の服。サイズが入らず、着られなくなりました。ガンになり、終活をしているんなものを整理しましたが、この服だけは捨てられなくて。着ることは諦めていて、死ぬ時にお棺に入れられたらいいと思っていたけれど、この機会があって良かったです。ガンの手術をして丸5年、再発なく無事に生きられた記念の旅行でまた着たいです。

杉山陽子



アイテム  
ツーピース

Re design!

4人の子どもが成人し、夫と2人きりで20年ぶりの旅行へ。そのとき買った花柄のツーピース。3回くらい着たけれど、夫が病気に、そして亡くなってもう20年。気持ちは60歳。本当は81歳。年を重ねているけれど、出場のチャンスをしていただき、もう1度新しいデザインで挑戦してみたいですね。今は歌（音楽健康ボランティア）をしています。仲間の皆様の前で着ることができればしあわせです。孫たちも応援してくれています。

松井幸子



アイテム  
ワンピース

Re design!

50代の時、パリのルーヴル美術館でのパーティーに参加した際に着た華やかな黒のロングドレス。着たのはその時一度きりだったけれど、キラキラした夢のような時間の思い出が詰まったドレスは捨てられず、人にあげることもできず、30年ほどタンスにしまわれていました。体型に関係なく、また着られるようになったらいいなと願って参加しました。

安川恵美子



アイテム  
デニムスカート

Re design!

鏡の前でファッションショーをするのが大好きでしたが、最近は服に気を使わなくなってしまいました。このスカートは、働いている自分にご褒美をと、京都の伊勢丹で買ったもの。自分のお金だけど夫に「買っていい？」と聞いたら、「まあ、いいんちがう？」と言ってくれた。6年前に突然亡くなった夫。自分が楽しんでいたら夫も楽しい、と思うようにしています。初めてのことでワクワクしています。

中嶋治代



アイテム  
スーツ

Re design!

半世紀前、小学校教員1年目に初任給で思いきって買った黒のスーツ。これ以外のスーツはすべて捨ててしまったけど、これだけは残していました。化石のようなスーツですが、甦らせていただけたら嬉しいです。昔はおしゃれが好きでしたが、今はもう「楽かどうか」だけでおめかしすることもなくなってしまいました。10代、20代のデザイナーさんたちから刺激をいただけたらありがたいです。

喜田幸子

優しく上品な今の角田さんの持つ雰囲気を感じられるようなデザインを目指しました。シルエットを変えることで、印象の変化も狙いました。今回参加して、いつまでも服を着ることが楽しみの一つとして残り続ける、という確証のようなものが得られました。

担当デザイナー 藤野さつき

ストライプ柄の別布は色味を落ち着かせて統一感を、またプリーツスカートと切り返すことでスタイルアップを図りました。少しずつ人柄がわかってきて、それが自然とデザインにも反映され、杉山さんらしいデザインになりました。改めて思い出と服は共にあることを実感し、一着一着を大切にしたいという想いが強まりました。

担当デザイナー 池松万智子

花柄を気に入っておられたので、できるだけ花柄の生地をたくさん使うようにしました。モデルさんの立ち姿は、人生の断片や思い出が立ち現れるようで、その服がどんなに大切にされているかを感じ、とても胸にくるものがありました。服というものが持つ力に、改めて気づかされました。

担当デザイナー 岩田明璃

ドレスの美しさや上品さを引き継ぎながらも、カジュアルに落とし込んだデザインに。デザインした服を自分以外の方に着てもらう機会がほとんどなかったので、生まれ変わった服にとっても喜んでくださっているのを見て、とても嬉しくなりました。

担当デザイナー 加藤有華

元々のスカートから、新しい生地を足すことによって全く別の商品にできることがとても面白いところでした。ステージに立つ中嶋さんの素敵な笑顔を観た瞬間、この企画に参加してよかったと感じました！本当に素晴らしい経験でした。

担当デザイナー WANG YI

元々の服が持つ印象を残しつつ、喜田さんの「ゴルフに行く際にも着用したい」という要望も反映したデザインに。何気ない会話の中からも、デザインのヒントが得られるということを学びました。本番では、モデルのみなさんがより一層輝いていて、観に来られた方のワクワク感も伝わってきました。

担当デザイナー 野村紗来

# MAIBARA 2024 OBACHANS' COLLECTION

出演モデル



アイテム  
カシミア  
コート

30年ほど前、母親と2人で京都へ出かけた時に買った、ちょっと高いオーバーコート。見た目を気に入って購入したものの重たくて2、3回着ただけでクローゼットの奥に眠っていました。母も同じようなコートを買って、ショートコートにリメイクもして着続けていました。母が亡くなって7年、母との思い出のコートを学生のみなさんが作ってくれる新しい形で、また着られるとうれしいです。

坂野和子

担当デザイナー 手代木麻衣



アイテム  
ワンピース

結婚のお祝いにと48年前、洋裁の仕事をしていた叔母が縫ってくれた当時流行のワンピース。お出かけの時にはいつも着ていました。「長男の嫁」として自分のことはつい後回しにしてきたので、残りの人生を自分流に生き生き過ごしたいと応募しました。生まれ変わった服で、叔母にありがとうと伝えたい。カラオケと朗読の発表会でも着られたらいいな。孫に負けず、おばあちゃんも頑張ります。

近藤裕子

担当デザイナー 古田乙葉



アイテム  
ハーフ  
コート

手先が器用で洋裁が趣味の母が作ってくれた赤色のコート。子どもの頃の服はほとんど手作り、妹のウエディングドレスを作るほどの腕前でした。良い生地が手に入ると新作を作ってくれて、このコートは20代の頃にプレゼントされたもの。65歳で亡くなった母がミシンに向かう姿が思い出されて、捨てることはできませんでした。母の思いが詰まったコートをまた着られたらうれしいです。

片山香代子

担当デザイナー 野々村多慧子



アイテム  
ジャケット・  
スカート

このチェックのジャケットとスカートは、20年以上前に私の体型が一番素敵だった時に買ったもの。高価ではないけれど、試着を試してみたらぴったりフィット。「お父さん見て！」と呼ぶと、服に無関心な夫が「ええやん」と即答してくれたんです。今年、金婚式を迎えました。夫のお眼鏡にかなった最初で最後の服を生まれ変わらせてもらって、また夫に「ええやん」と言ってもらいたいです。

高木明美

担当デザイナー 原田裕作



アイテム  
ロング  
コート

綺麗でなんでもできる器用な自慢の母は今93歳。認知症のため特別養護老人ホームで暮らしています。その母が30年くらい前に着ていた一張羅の黒のロングコートです。「京都の大丸でお父さんに買ってもらったよ」と嬉しそうでした。今回、現代風にデザインし直していただけたら、これを着て母と並んで写真を撮りたいなと夢見ています。「返して」って言われるかな。(笑)

塚本由美子

担当デザイナー 久龍未空

今後も長く着られるように、フレンチカジュアルをイメージして流行に左右されにくいシンプルな日常着としてのコートをデザインしました。ぼんやりとしたコンセプトではなく、具体的なシチュエーションを思い浮かべてデザインすることで、想像が広がりいろいろなデザインを提案することができました。

ベストは幾何学模様に入っていた灰色を別布に取り入れ、スカートはウエストが細く見えるよう、黒地に赤の布を縦に入れました。服の思い出や要望を聴きながらデザインを提案するのは、一緒に服を作っていく感じがして楽しかったです。近藤さんも「デザイン画通りの素敵なものになりました」と笑顔で言ってくださり、とても嬉しかったです。

お母様が作られたコートをととても気に入ってらっしゃったので、もとの雰囲気をできるだけ変えずに普段から着てもらえるデザインに。本番を迎えたモデルさんの舞台での輝き、また、素敵な笑顔を見ることができ、ファッションの力を改めて感じることができました。

赤いチェック柄を活かしつつ、華やかさをやや抑えることを目指して、黒の布地を別布に使い、イメージを変えたラップ風スカートに。デザインの段階で「ヒアリング」「デザイン画」「縫製仕様書」「スタイリング」を一つずつアウトプットし、プレゼンすることは貴重な経験でした。最終的に満足いただけるデザインとなったことに、とても達成感を感じました。

普段着として着やすい現代風のデザインにしつつ、唯一無二になるように好みに合わせたデザイン性のあるボタンを使用しました。1人の人のためにデザインを考える機会、それをショーで披露する機会はファッション業界に就職したとしても一生に一度あるかないかだと思います。そのような経験ができ、貴重な財産になりました。

## MAIBARA 2024 OBACHANS' COLLECTION

ファッションショー  
の映像はこちら！  
ぜひご覧ください♪



MAIBARA 2024  
OBACHANS'  
COLLECTION



## CREDIT

クレジット

- ファッションショーエスコート出演 … Halo harmony メンバーの子どもたち
- ファッションショー司会 …… 井上麻子 (ラジオパーソナリティ)
- ゲスト …… 中尾ミエ
- ディレクション …… ワタナベユカリ (株式会社仕立屋と職人)
- パターン/縫製 …… 富岡尚子 (クチートとみおか)
- ファッションショー演出/舞台監督 … 北川学
- ファッションデザイン …… 滋賀県立大学人間文化学部生活デザイン学科  
森下あおい研究室  
(野々村多慧子、WANG YI、原田裕作、  
池松万智子、久龍未空、野村紗来、岩田明璃、  
加藤有華、手代木麻衣、藤野さつき、古田乙葉)
- ウォーキング指導 …… 松原小夜子 (ウォーキングスタジオ La chou chou)
- ヘアメイク協力 …… (株)資生堂 資生堂学園 資生堂美容技術専門学校
- 装飾品レンタル協力 …… Kaoru\_sawa (びわ湖の琵琶真珠アクセサリー) ほか
- 写真撮影 …… 浅井千穂
- 記録映像撮影 …… 佐藤大知
- 主 催 …… 公益財団法人びわ湖芸術文化財団  
公益財団法人伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団
- 協 力 …… 滋賀県立大学人間文化学部生活デザイン学科  
森下あおい研究室
- 企 画 …… 伊吹薬草の里文化センター

### 伊吹薬草の里文化センター (滋賀県米原市春照 37)

伊吹山は古来から薬草の宝庫として知られています。織田信長公は薬草園を開いたとされ、日本植物分類学の父といわれる牧野富太郎氏も幾度となく足を運びました。伊吹薬草の里文化センターはこの歴史ある伊吹山を背景に『薬草』をテーマとした複合施設です。生涯学習講座「学びのとびら」を開講し、薬草風呂、薬草園、文化ホール、屋内運動場などが併設されています。



## SCHEDULE

実施スケジュール

2024

3月 企画会議  
滋賀県立大学森下あおい研究室に服のデザインを依頼  
出演モデル募集

4月 出演モデルの決定

5月 デザイナーとモデルの皆さんの顔合わせ・  
服への思いをヒアリング・採寸

6月 デザイナーからモデルへデザインの提案

7月 洋服のデザイン決定 制作開始

8月 洋服試着会、  
ファッションショーのスタイリング確認

9月 舞台演出会議  
ウォーキングの練習

10月 20日(日)  
ファッションショー本番 13:30 開場 / 14:00 開演  
1部 ▶ MAIBARA 2024 OBACHANS' COLLECTION  
ファッションショー  
2部 ▶ 中尾ミエトークショー  
「人生もっともっと楽しまなくちゃ」

2025

1月 18日(土)～24日(金)  
「MAIBARA 2024 OBACHANS' COLLECTION 写真展」  
@伊吹薬草の里文化センター gallery かくとだに





# デザイン提案



学生デザイナーたちが、出演するモデルの思いを詰め込んで、デザイン案を作成・提案。



# ウォーキング練習

ショーに向けて、ウォーキングのレクチャーを受ける。



メイクアップで、ランウェイを歩く準備中。

# メイク



# 洋服試着

デザイン画を元に、パタンナーが制作した仮縫いの洋服に袖を通す。





舞台裏



ランウェイ



会場の様子



たくさんのお客様が集まる。

Halo harmonyの子どもたち



ランウェイで出演モデルをエスコート。





トークゲスト／中尾ミエ

ショーを舞台袖から見でしたが、いくつになっても、おしゃれをするのはいいですよ。

毎朝公園に集まって一緒に運動をする平均 80 歳の仲間たちにも「派手な格好をしてきて」と言っています。そうすると 30 年前のかわいい T シャツを着てきてくれたりするんですよ。どんどん派手さを競い合うようになって、気持ちも楽しく明るくなっていきます。

白髪だろうが、シワができようが、シミができようが、これはもうしょうがない。私は「それが自分だ」と思ってそのまま生きています。だからこの年齢でも腕を出した服を着たり、ヒールを履いたりね。人生はそんなに長くないですから、ありのままの自分に自信を持って生きていかないと、もったいないですよ。これまでに経験したことだけをやって生きるのも、もったいない。私自身も新しいこと、やってみたかったことにチャレンジし続けていきますよ。



ディレクション／株式会社仕立屋と職人 ワタナベユカリ

とても素敵な本番でした。デザイナーの学生たちが丁寧にヒアリングを重ねてくれて、最後にはモデルからお礼のプレゼントを渡される場面も。特別な関係を築くことができたようです。

プロフェッショナルなスタッフの中で、モデルさんも徐々に主役としての実感が増したようで、変化が見えました。ある方は鏡のある施設を借りて、ウォーキングの自主練習までしてくれたそう。本当に嬉しかったです。服というものは、誰かに見てもらうためではなく、自分のために着るものだと私は思っています。人や世の中に言われて「こういう服を着ないと」ではなく、自分の気持ちを優先して思いのままに、好きなファッションに挑戦してほしい。いつもより派手な服装で、ジュエリーもたくさんつけて、ランウェイを堂々と歩いたモデルのみなさんは、「意外と私、イケるじゃない」と思ったはず。これからも自分の人生を豊かにするためのファッションを楽しんでもらえたら嬉しいです。



デザイン協力／  
滋賀県立大学人間文化学部 生活デザイン学科 教授 森下あおい

当初は年齢の離れたモデルのみなさんと緊張しながら話していた学生たちですが、モデルの方の服への思いを自分ごととして受けとめ向き合った結果、本番ではとても近い距離感になっていて、ものづくりや服を通して世代を超えたつながりが生まれたように思います。

企画を通して、服が持っている力を改めて感じることができました。その方の大切な思い出や気持ちが詰まっている服に、リデザインはもちろん、今回の取り組みの思い出やご本人が着ることによる表現が加わることで、さらに新しく、強く進化していきました。

服はただのモノではなく、人間とのつながりの強いものです。ファッションは、年齢や立場に関係なく、誰にとっても新しい気持ちや可能性を与えてくれる。それが、今回の企画の大事なメッセージだと感じています。



主催／公益財団法人びわ湖芸術文化財団 事業担当 眞島美帆子

「服」という身体に近い題材を扱うからこそ、参加する皆さんの気持ちを一番大切にプロジェクトをすすめていこう、と心がけていました。参加した皆さんにとって、今回のショーが、それぞれの人生の大切なものを振り返り、これからを照らしていくきっかけになればうれしいです。

今回の企画は、伊吹薬草の里文化センター清水さんからの提案を受け、「滋賀県アートコラボレーション事業」として実施されたものです。この事業は、県内の文化ホールが「新しい広場」としてより一層ひらけていくことを目指し、地域の「なにかやりたい！」という想いを応援しています。

今回、出演者・スタッフ・服をデザインした県立大学の学生さんそれぞれが、個性・パワーを発揮し、「ここだけでしか見られない！」ショーをつくることができました。滋賀県アートコラボレーション事業としても、素敵な事例になったと思います。皆様に感謝いたします。



ファッションショー演出・舞台監督／北川学

モデルさんたちが本当に輝いていました。

大切にしたいと思ったのは、ショーであること。モデルさんやデザイナーさんに経験があろうがなかろうが、舞台裏でドタバタしようが、何より優先すべきは来てくれたお客さんに楽しんでもらえること。その一点だけはブレないよう心がけました。まちのあちこちに掲示されたポスターによってみんなの視線が上がり、ステージで練習を重ねるごとに表情が変わっていくのを感じました。少しずつ本物のモデルさんになっていく女性たちの姿がとても頼もしく、とても素敵でした。そして、次の時代を担うハロハーモニーの子どもたちも、オープニングアクトやエスコートでショーを盛り上げてくれました。とても素晴らしかったです。このファッションショーが継続し、今回参加してくれた子どもたちがモデルやデザイナーとして関わってくれている未来を楽しみにしたいと思います。



企画・主催／伊吹薬草の里文化センター 清水啓子

感動の中、大成功で無事に終えることができました。初めての試みで想像しなかったことの連続でしたが、プロフェッショナルなスタッフそれぞれの立場からアドバイスをいただき、本番を迎えることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。思い出ある洋服を学生さんによるデザインと、プロの手により蘇らせ、身に纏う。当初はもう少し規模が小さいものだと感じていた主役のモデルさんたちも、プロのモデルウォーク指導やプロ仕様のメイクに驚きながらも自信をつけ、ショー当日の表情はとてもキラキラ輝いていました。「まるでシンデレラになったようで、未だに夢から覚めません」「私の人生で最高に幸せな瞬間」と嬉しいメッセージもいただきました。会場のお客様からも「歳を重ねるのも悪くないと思った」「前向きになりました」とのお声がありました。今回の企画が、「地域の女性が元気なまちは地域の活性化につながる」ことの一助になったと感じています。

